



平成30年度第2回防衛施設学会見学会レポート ～ 陸上自衛隊勝田駐屯地見学会～

(一社)防衛施設学会

(一社)防衛施設学会は、平成31年3月1日(金)、防衛省陸上幕僚監部防衛部施設課、陸上自衛隊施設学校(学校長:腰塚浩貴陸将補)の御協力を得て、陸上自衛隊勝田駐屯地(茨城県ひたちなか市勝倉3433)の見学会を実施した。見学会当日、同駐屯地において施設学校主催の「施設科セミナー」が開催されており、50名の会員が参加した。勝田駐屯地に到着後、施設学校庁舎において施設学校研究部、学校広報班から当日のスケジュール等を含めた施設科セミナーと勝田駐屯地の概況説明が行われ、引き続き、装備品展示、施設科セミナー研修、防衛館研修の順で見学が行なわれた。

概況説明等によると、勝田駐屯地は、茨城県県央地区東部に所在する駐屯地で、駐屯地内には約500本の桜の大木(樹齢約60年)が並び、県内でも有数の桜の名所に数えられ、春には桜の開花時期に合わせて駐屯地の一般開放(桜まつり)が行われ、夏には夏祭りを、そして秋には駐屯地記念行事を通して、多くの地域住民と交流を重ねている。

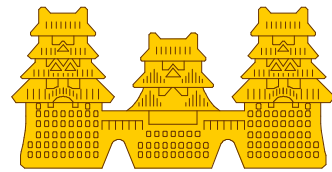
陸上自衛隊は、普通科、機甲科、特科等の15種類の職種から構成されており、施設科は、陣地の構築、地雷等の障害構成・処理及び道路や橋梁等の破壊・構築・修復等を行って他の部隊を支援する職種で、旧軍や海外では「工兵(英:Corps of Engineers)」と言われている。

陸上自衛隊施設学校は、施設科隊員に対する隊員教育及び調査研究を主な業務とする機関であり、本年で開設68年を迎えた。平成25年に完成した施設学校庁舎は、職種き章の「城」と、「Engineer」の「E」をモチーフにしており、1階は石垣を思わせる黒を基調にした配色にして、実に「施設科」らしい雰囲気をした庁舎である。

施設学校では、施設科の職域に必要な知識・技能を習得させるため、建設営繕、測量、木工、電気等の施設技術、幹部の指揮教育、曹士等の施設技術に係る教育訓練及び部隊運用等に関する調査研究を行っており、毎年、陸・海・空各自衛隊から年間、約1,000名の学生が入学し、年間を通じて教育訓練を行っている。

隷下には施設教導隊を有し、同隊は、施設学校の教育支援とともに、海外の支援対象国に「能力構築支援(キャパシティ・ビルディング)事業」を行なう一方、県内の20市町村を隊区とした災害派遣等の実働部隊としての機能も有している。

能力構築支援事業は、国連PKOにおける道路構築等の施設分野に関する人材育成を目的として、施設学校の教官を支援対象国に派遣しての教育実施や、支援対象国の教官要員を施設学校に招聘して教育を行う等、支援対象国自身の知識、技能の向上に努めているとのことである。



施設科職種き章



写真-1 陸上自衛隊施設学校庁舎
(北関東防衛局広報第82号(平成27年3月発行)から転載)



写真-2 施設学校庁舎1階玄関

施設科セミナーは、施設学校が二年に一度行う事業の一つであり、「将来にわたり多様な任務に対応する施設技術」をテーマとして、広く民間技術を得る目的で開催されている。陸上自衛隊の施設支援を取り巻く現在の状況、ニーズ等に対する各種民間技術の活用を図るため、各社の製品、技術等を、各施設団長、陸幕関係者、施設学校学生等に対し、発信するものである。

初回数社の参加から始まった本セミナーは、今回で7回目の開催となり、参加企業は54社と規模が拡大している状況にあるとのことである。

概要説明に引き続き、各種施設器材について、施設教導隊の担当者から各器材の目的、運用要領等の説明を受けた。

施設科部隊は、任務遂行のための特殊な装備品を保有しており、ドーザ、トラッククレーン、油圧ショベル等については、市販器材を活用しているが、94式水際地雷敷設置装置を始めとする市販器材では代替できない障害構成・処理や渡河・架橋等の施設器材は、陸上自衛隊の運用構想に基づき、防衛省技術研究本部（当時。現、防衛装備庁）での開発、試作、検証等を経て制式化されて、導入されているとのことである。今回初めて陸上自衛隊部隊の見学会を実施したことから、会員からは多くの質問が出され、関心の高さが伺えた。担当者は、時折ユーモアを交えながら会員の質問に即答される一方、部隊運用等に関わる質問に対しては、「私は何でもお答えできませんが、それについては回答できません。」と明確に話されたことで、任務に対する真剣さを垣間見ることができたのではないかとと思われる。

その後、施設科セミナーを見学した。セミナーは、大きく6個のテーマに分けて、テーマに沿った各種の技術について、各企業等が展示する形になっていた。

展示会場には、防衛施設学会の会員企業のブースがある一方、自衛隊への展示が初めての企業もあり、来場した自衛隊員等も興味をもって、それぞれの展示ブースを訪問していた。本セミナーには施設団長を含めた陸上自衛隊の施設科関係者以外にも防衛装備庁装備官や海上自衛隊、航空自衛隊の施設関係者も多数来場されており、約400名の来場者となったようである。

展示品の中には陸上自衛隊のみならず、広く三自衛隊の施設、基地等にも利用可能な技術や製品が多々あり、このようなイベントを契機として、各社が当学会のテクノフェア等への参加や各自衛隊への訪問に至れば、企業等にとってより意義のあるものとなるであろうと思われる。



写真-3 勝田駐屯地概況説明



写真-4 施設器材の展示説明



写真-5 94式水際地雷敷設置装置（水陸両用車）の展示

最後に、防衛館を見学した。防衛館は、設計・各種申請手続きから工事までの全ての工程を、施設学校の学生及び隊員にて実施したとのことであり、完成までに約3年の歳月、延べ人員5600人を要しての完成とのことである。建設にあたっては、計画、工事の段階において、各種の阻害要因があったものと推察されるが、施設学校の教育成果をこのような形で残すことは、学生教育の大きな教材であり、この施工実績は広く自衛隊の施設部隊の中においても貴重な建築分野の財産になっていることと思われる。

防衛館館長の説明によると、防衛館は旧軍史料の展示施設として平成28年に開館し、駐屯地を訪れる部外の方や全国各地から施設学校に入校する学生教育に利用されているとのことである。

展示品は、郷土部隊の史料を後世に伝えるため、「茨城郷土部隊史料保存会」が収集した水戸歩兵第2聯隊（明治7年編成）に関連した、日露戦争（明治37年）からペリリュー島の戦い（昭和19年、パラオ諸島）までの史料を主体に、1階、2階のそれぞれにガラスケースに保管・展示をしているとのことであり、防衛館は、旧陸軍から連綿と続く地元と部隊の架け橋の役割を担っており、駐屯地の円滑な地域交流の一助になっているのではないかと考えられた。

駐屯地周辺の前日の天候は大雨であったと聞き及んでおり、セミナー開始の直前まで展示施設周辺等の整備で大変であったと推察する。

施設科セミナーの来訪者への対応、各企業の受け入れ等に多くの学校関係者が多忙をきわめる中であって、今回の見学会の受け入れを快諾いただいた施設学校長を始め学校関係者の皆様の御支援に深く感謝を申し上げますとともに、施設学校との各種調整に時間を割いていただいた陸上幕僚監部施設課のご協力に改めて深甚な謝意を表すものである。

参考

- 1 陸上自衛隊HP <http://www.mod.go.jp/gsdf/about/recruit/branches/index.html>
- 2 陸上自衛隊施設学校HP <https://www.mod.go.jp/gsdf/shisetsu/es-hp/>
- 3 北関東防衛局広報第82号（平成27年3月発行）<http://www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/kouhou/kouhousi82.html>



写真-6・7 施設科セミナーの展示見学



写真-8 防衛館・展示史料の見学



写真-9 見学会参加者（防衛館前）



一般社団法人 防衛施設学会
Japan Society of the Defense Facility Engineers

URL; <http://www.jsdfe.org/>

E-Mail; gakkai@jsdfe.org

